



港区立高松中学校 学校だより<第10号>

令和2年2月6日 校長 鋸持 利行

創立1949年(昭和24年) <高松中生のあたりまえ>推進校 港区高輪1-16-25

つなぐ

副校長 松島 智子

2月2日(日)、2月とは思えないほどの暖かい日差しの中、「第11回 中学生東京駅伝」がアミノバイタルフィールド(味の素スタジアム内)にて行われました。この日のために、港区内中学生から男女合わせて42名の選手が代表として選出され、約3か月の準備期間を経てこの舞台に臨みました。選手は、陸上を専門としている生徒ばかりではありません。我が高松中学校からも9名の生徒が選ばれました。これまでの練習日には、晴れの日ばかりではなく、寒くてつらい日もありましたが、誰一人脱落することなく、全員がこの日を迎えることができました。今、思い返すと結団式の時から、明るい生徒たちでした。そんな彼らのモチベーションのおかげか、男子は32位という過去最高の順位となり、女子は44位という成績でしたが、港区の過去の記録を更新することができました。本当に素晴らしい記録です。応援していた私たちも、うれしく誇らしい気持ちになりました。

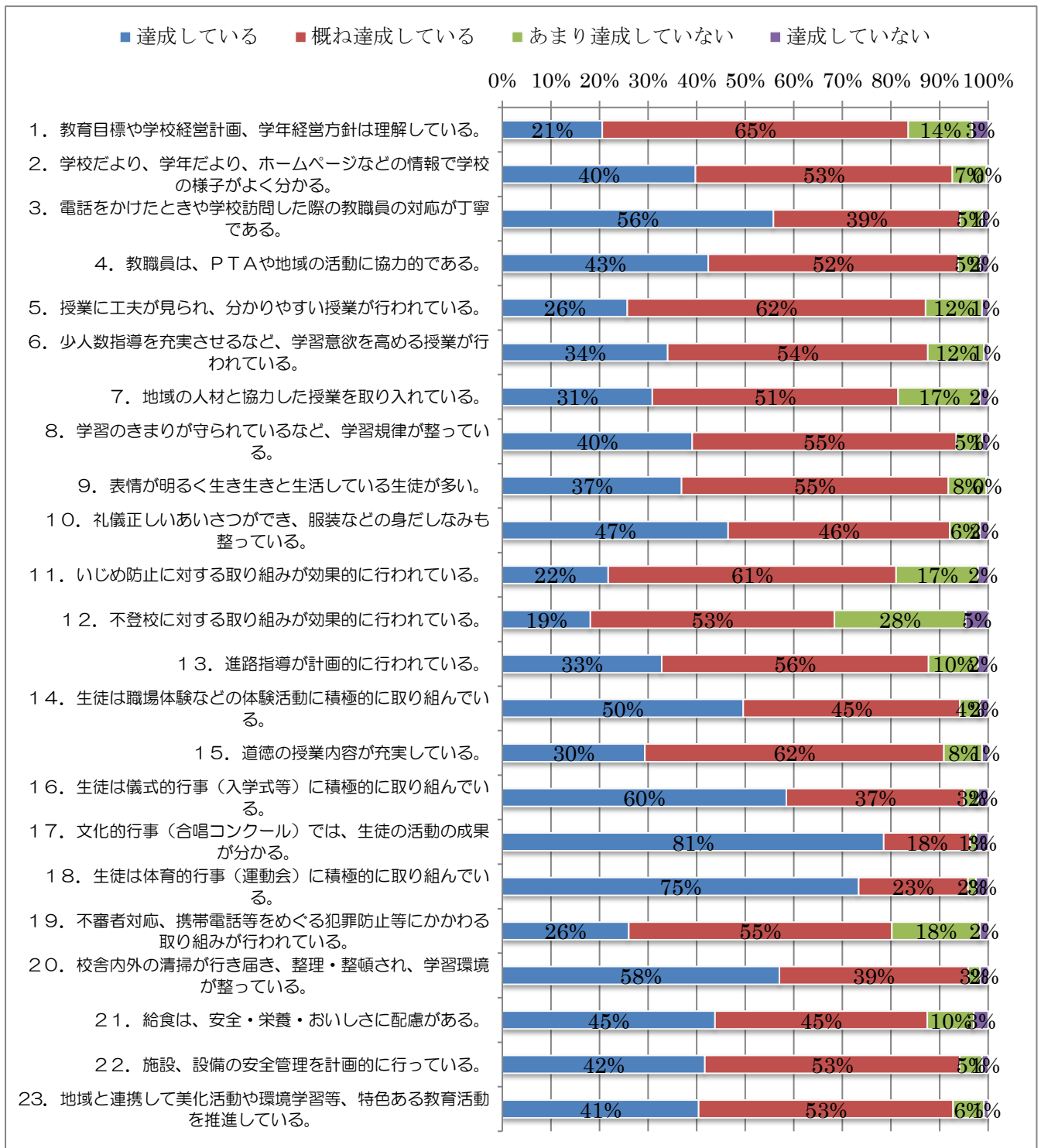


それにしても、なぜ人は駅伝にこれほど感動するのでしょうか。そもそも、駅伝が日本発祥の競技であることを皆さんはご存知でしたか。駅伝が最初に競技として行われたのは、今からさかのぼること103年前の1917年(大正6年)に「東京奠都50年奉納・東海道駅伝徒歩競争」といわれています。関東と関西の2チームが京都三条大橋―上野不忍池間約516キロを23区間に分け、3日間、昼夜を問わず走り継ぐ壮大なたすきリレーだったそうです。また、お正月の風物詩となった「箱根駅伝」は1920年(大正9年)2月14日午後1時に、早大、慶大、明大、東京高師(現筑波大)の4校で行われたのが第1回大会です。当時は、学生の数も少なく、20キロ走る選手を10名集めることすら難しかったそうです。その「箱根駅伝」も今年で、創設100年を迎えました。この間、どれだけの大学生が冬の箱根路を夢見て、駆け抜けたことでしょう。選手は、何年間もこの駅伝に出るために毎日練習を重ね、けがや故障の恐怖と常に戦いながら、ベストコンディションに近づけていくという、常人には真似のできない根性とストイックな部分を持ち合わせています。この大会に出場するために、きっといろいろなことを犠牲にして、ただ一つの目標に向かって、己の心身を鍛え続けてきたことでしょう。選ばれた選手にとっては、大変名誉なことではありますが、同時にチームに迷惑をかけるわけにはいかないという責任も重くのしかかります。しかし、その重圧に勝って、選手は自分のため、そして一緒に走る仲間たちのために自分のできる精一杯の力を発揮する。このことは、人生にもなぞらえられるのではないのでしょうか。



さて、3年生はいよいよ受験本番を迎えます。これまでの自分の努力してきた成果が試される時です。そして、新たな道を開き、未来へと人生のたすきをつなぎます。どんな人生を送るとしても、それは自分が選んだこと。悔いを残さないためにも、しっかりと一步一步、前に進んで行ってください。
“がんばれ、受験生”

令和元年度 学校評価アンケート集計結果より



今年度も、2学期に行った保護者による学校評価アンケートへのご協力並びに多数のご意見、ありがとうございました。結果をみると本校の教育活動について、保護者の皆様のご理解が十分ではないことがわかります。見える部分と見えにくい部分があると思いますが、このことも含め、保護者の皆様からお寄せいただいた貴重なご意見は、全教職員で共有し、改善できるところは改善を図り、生徒が安心して学べる学校、そして地域や保護者から信頼される学校作りを目指してまいります。今後とも、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。